

保育士の自己評価

社会福祉法人 鶴見乳幼児福祉センター

H27年10月作成→H30年4月改訂

鶴見乳幼児福祉センター保育園

令和元年（2019）→34名

市社協・保育福祉部会主催研修（H26年2月3日開催）

「保育所の自己評価」研修資料より抜粋

* 保育士のための自己評価 *

* チェックシートの書き方 *

- ① チェックシートに沿って自己評価をします。
 《評価の目安》 a … 十分わかる／十分出来ている
 b … おおむねわかる／おおむね出来ている
 c … あまりわからない／やや不十分
 d … ほとんどわからない／改善を要する
- ② 各項目の上段を1年目、中段を2年目、下段を3年目に使用します。
- ③ 特に具体的に取り組んだ項目や気付き等を右欄に記載します。

チェックシート

* 生活

	評価基準	記入年	評価項目ごとの評価結果					具体的な取り組み及び考察
			a	b	c	d	未記入	
1	子ども一人ひとりの発達状況と子どもの おかれている事情を理解し、保育を行っていますか。また、日々の健康状態を把握し保育していますか？	2018年	42%	58%				一日を通しての保育を心掛け職員同士のノートの活用をしながら、必ず子どもの引継ぎを行うようにしている。全体のミーティング等で確認する。朝夕の職員と連携を取り、個々の発達状況等話し合っている。
		2019年	47%	44%				配慮が必要な子に対する接し方や日々の様子を担任に聞き把握するようにしている。登園時様子のチェックをしている。声を掛け合いながら、保育している。会議で発達や家庭環境について共有。ミーティング。朝夕職員と連携し、変化を見逃さないように努めている。
		2020年						
2	登園時に泣く子どもに対して、放っておいたり、叱ったりするのはなく、子どもの状況に応じて抱いたり、優しく声を掛けたりしていますか。また、自分の気持ちをうまく表現できない子どもの心情を汲み取ろうとしていますか。	2018年	63%	37%	100%			各クラスで担任職員が受け入れをしている。泣いている理由を聞いたり気にかけて、気持ちに寄り添うようにしている。
		2019年	68%	26%	3%		3%	何を伝えようとしているか子どもの様子からくみ取ろうとしている。やさしく受け止めている。気持ちを表現できない子に寄り添い言葉にできるようにする。保護者から状況を聞き、子どもの気持ちを代弁しながら関わっている。否定的な言葉を言ってしまうことがある。
		2020年						
3	保育室の換気や温度・湿度に配慮して保育していますか。	2018年	58%	42%				日誌に記入し意識している。温度・湿度計を確認し調整している。窓を開け換気をしている。
		2019年	62%	32%	6%			よほど不快でない限り担任に任せてしまっている。濡れタオルを多めにかけるなどし、保てるよう配慮している。掃除の際換気。湿度の下げ方を習い実践した。常に確認しこまめに換気。
		2020年						
4	乳児においては、継続的に同じ保育士との関わりが保てるよう配慮していますか。	2018年	47%	47%	5%			1日を通し担当職員が関わるよう配置している。乳児は担当制を取り入れている。
		2019年	50%	35%	6%		9%	子どもの様子を見て対応している。違う職員が関わる時きも同じような対応ができるようにしている。入園当初は特に子どもの様子からゆるい担当制を取り入れた。食事は担当制。1人1人習慣が身につくよう関わっている。
		2020年						
5	食事の前の手洗いを励行する等、清潔習慣が身に付くように援助していますか。	2018年	74%	26%				清潔について話をしたり、絵本を読み手洗いの大切さを伝え洗う際は歌を歌っている。
		2019年	85%	12%			3%	繰り返しわかりやすく声をかけたり手伝っている。はい菌バイ菌よおね等なぜなのか声掛けしながら対応している。健康について考える機会を持ち、保護者にも伝えていく。楽しく手洗いができるように歌を歌いながら行えるように援助している。絵本で大事さを伝える。細めに鼻水を拭いている。
		2020年						
6	子どもが残さず食べることを強制したり、偏食を直そうと叱ったりしていませんか。	2018年	68%	32%				自分で食べる量を決められるようにしている。苦手なものは1口は食べようねと声掛けし無理強いはいしないようにしている。
		2019年	74%	18%	3%		6%	食べられないときは担任に話し対応している。量の調節をして完食の喜びを知り自信につなげている。心がおおくない食事はさせたくない。減らしてから食べ、後からおかわり満足している。その日の体調も考慮し、苦手なものは1口食べられると褒めている。一言声をかけるがそれでも嫌がるときは終わりにしている。
		2020年						
7	子どもが落ち着いて食事を楽しめるように工夫していますか。また、時には様々な場所で食べる等の工夫をしていますか。	2018年	32%	68%				散歩先やテラスでおやつを食べたり、お弁当を持って遠足へ行ったり異年齢でホールで食事を楽しんでいる。職員も一緒に食べその日の食材を話している。
		2019年	41%	47%	3%		9%	食事中は逆ぐで遊ばないよう声掛けをする。じつがり座って対応したいが、たっせしてしまうことが多い。アレルギー児がいるなど難しいが考えていきたい。席を変え色々な友達と関わって楽しめるように工夫している。テラスで食べたり時々雰囲気を変えている。職員も一緒に食べ食材の話をする。
		2020年						
8	季節感のある食材に触れる機会を設けたり、子どもが育てた野菜等を料理して食べることがありますか。	2018年	63%	37%				育てた野菜を収穫し、味わう楽しさを共有した。調理体験。
		2019年	62%	26%	3%		9%	育てた野菜を目で見ると楽しみ、水をやり育て収穫し、味わって楽しめた。庭の柿を昼食に試食した。園としてはやっているが自分は促しや提供が十分ではなかった。今年もたくさんの野菜が育ち味わえた。芋ほり。稲から御飯に。ピーマン・おくら・トマトがとれた。
		2020年						
9	食事(離乳食・アレルギー・偏食)病気(健康状態)は、家庭と連携を取りながら、一人一人の子どもに状況に配慮して対応していますか。	2018年	68%	32%				アレルギー面談をして、アレルギー食を提供している。毎月の献立チェック、プレート使用
		2019年	74%	18%	3%		6%	アレルギー児はテーブルを分けアレルギー児個別の献立表をみて調理師と保育士でチェックをしている。アレルギー食を食べ物に触れないように気を付けている。視診等で把握し共有する。除去にある日は時差で食べ食後は別の場所遊ぶ。アレルギー面談。
		2020年						
10	調理をしている場面を子ども達が見たり、言葉を交わしたり出来るような工夫を行っていますか。また、子どもが配膳や片付け等に参加できるように配慮していますか。	2018年	47%	47%	5%			調理室へ収穫物を子どもが届け接する位なのでできると良い。保育室でサンマなど調理員がそばき、食事の様子を見に来てくれる。ガラス窓越しに見たり、言葉を交わしている。
		2019年	38%	41%	12%		9%	当番児が配膳、片付けはそれぞれがしている。調理の場面をもっと見せたい。片付けはできている。挨拶をしたり、給食のメニューを聞いたりしている。調理師による実演。
		2020年						
11	おもらしをした時に、その都度優しく対応し、子どもの心を傷つけないよう配慮していますか。	2018年	58%	42%				次につながるような声掛けをしている。おもらしの荷物の置き場や伝達の際傷つけないか心配になることもある。
		2019年	82%	18%				言葉を選び声掛けしている。『出ちゃった』等気になるような声はかけない。『大丈夫だよ』等優しく声をかけている。傷つけないよう声掛けしている。
		2020年						

チェックシート

* 生活

	評価基準	記入年	評価項目ごとの評価結果					具体的な取り組み及び考察
			a	b	c	d	未記入	
1	オムツ交換時には、優しく声を掛けたり、スキンシップを行っていますか。	2018年	79%	21%				1対1で関わることでできる時間でもあるので大切にしている。会話をしながら行い時間が掛かることがある。
		2019年	82%	15%				話をしながらスキンシップを図っている。トイレに行くことを嫌がるときはおむつだけ替えるようにしている。個々に声掛けをする。1対1で関わることでできる時間でもあるので大切にしている。
		2020年						
2	衣服の脱ぎ着に際して、せかしたり、着せてしまったりしないで、自分でやろうとする子どもの気持ちを大切にしていますか。	2018年	63%	37%				見守ったり、やる気になるような声掛けをしている。できない時は「手伝って」「やって」が言えるよう伝えている。
		2019年	74%	21%	3%		3%	「自分で」の気持ちは大切に、「やって」と言われた時には手伝いながら自分でできるようにしている。自分でできないときは「手伝って」「やって」が言えるように伝えている。声をかけ見守っている。できた時は共に喜ぶ。やる気のみられるとき十分にできるよう対応している。人数が多くなり、時間に余裕がないと手伝ってしまうことがある。
		2020年						
3	自分の物・他人の物・共同の物の区別に気付き、大切にできるようにしていますか。	2018年	32%	68%				共同の物の使い方をもちと知らせていきたい。
		2019年	50%	41%	3%		6%	「大切に」の意味をしっかりと伝え、なぜそうなくてはいけないか聞いてみる。自分自身も気を付けたい。作ってくれた方がいることを話した。扱いは大人が見本になり丁寧に扱う。
		2020年						
4	休息時には、子守唄を歌ったり、背中を軽くたたく等、安心して心地よい眠りにつけるように配慮していますか。	2018年	79%	21%				子守唄を歌うと途中で起きても歌うことで安心して眠っている。
		2019年	71%	15%	6%		9%	子守歌など歌いながら安心して眠れるように心がけている。
		2020年						
5	乳児は一人一人の生活リズムに合わせて睡眠をとることが出来るように配慮していますか。また、乳幼児ともに休息時に、眠くない子どもへの配慮をしていますか。	2018年	47%	47%	6%			個々にご午前寝の時間を変えている。
		2019年	44%	38%	6%		12%	寝付く時間を把握し配慮している。身体を休めることの大切さ等を伝えている。眠れない子は無理に寝かすことはないが、布団で静かにすることのできない子の対応が配慮しきれているか。二人一人のリズムを把握し、対応している。
		2020年						

チェックシート

* あそび

	評価基準	記入年	評価項目ごとの評価結果					具体的な取り組み及び考察
			a	b	c	d	未記入	
1	年齢に合わせて、素材や用具を子ども達が自由に取り出せる場所に置き、遊具の正しい使い方を丁寧に伝えたり、見守ったりしていますか	2018年	37%	58%	5%			玩具の数や種類は時期によって変えるように心がける。使う量や片付け方も知らせたい。
		2019年	44%	47%	6%			玩具の使い方や場所などを1つ1つ丁寧に伝えている。手作り玩具や内容はもう少しできると良かった。
		2020年						
2	自分のイメージを言葉等で表現したり、皆と一緒に表現する楽しさが味わえるようにしていますか。	2018年	58%	37%	5%			リズムやごっこ遊び。発表会等ひとりひとりが自由に話せる時間を作る。
		2019年	50%	38%	9%		3%	ごっこ遊びでは保育者の一声で遊びの幅が広がると感じており、日々一緒に楽しむ。歌やわらべ遊びなどで一緒に遊ぶ楽しさを体験できるように心がけている。
		2020年						
3	五感を感じたり、自然の素材に触れて、楽しむ機会を多く取り入れていますか。	2018年	68%	26%	5%			散歩に行き草花に触れている。四季の移り変わり伝える。持持寺周囲の環境に恵まれている
		2019年	50%	38%	12%			花を使って色水遊びをしたり、自然探しをしている。散歩を通して四季の移り変わりを伝えたり、自然に触れたりしている。
		2020年						
4	好きなことをしてくつろげる空間や子ども達がのびのびと身体を動かせるように時間場所・遊びを確保していますか。	2018年	47%	53%				環境設定はクラスで話し合い、必要な場合は変える。ホールで遊びのスペースを作ったり、子どもからアイデアを引き出して確保している。静と動を意識し保育を組み立てている。大きいクラスでもくつろげる環境を作りたい。
		2019年	53%	38%	6%		3%	部屋の角を利用して好きな場所で遊べるようにしている。室内外で遊びのスペースを作ったり、子どもたちからアイデアを引き出し確保。
		2020年						
5	玩具・遊具は、必要に応じて、消毒したり衛生面に配慮していますか。	2018年	16%	74%	10%			毎日行い、金曜に洗濯。ビュウラックスで玩具消毒。日々に追われ日が開いてしまった。
		2019年	47%	41%	12%			洗ったり、消毒液で拭いたり配慮している。定期的に行っている。
		2020年						
6	異年齢の子どもの交流が行われていますか。	2018年	53%	42%	5%			夏祭り異年齢グループで神輿づくり等準備。合同遠足。ヘアで異年齢児での交流。朝の体操。リズム、わらべうたあそび交流。年長児が年少にお手伝いをしに来て関わってくれる。
		2019年	53%	35%	9%		3%	進級に向け乳幼児クラス共交流を増やしていきたいと思っている。散歩に行ったり行事リズムなどで交流している。土曜保育で幼児クラスの遊びを乳児クラスも模倣している。0歳児クラスや廊下で遊ぶなどもっとあってもよい。今年は少なかったので後期取り組みたい。
		2020年						
7	毎日の活動の中で数や量等につれる機会を作っていますか。	2018年	47%	37%	16%			わらべうたあそびや花はじき、お手玉などの玩具、収穫物の数など自然に興味を持ち覚えられ環境が作れている。1日の流れボードや時計、当番活動など。
		2019年	41%	44%	9%		3%	絵本やパネルシアターなどで数字の出ている話等取り入れている。
		2020年						
8	つまづきや葛藤、けんかななどの経験が成長に欠かせないものにとらえ、適切に対応していますか。	2018年	74%	26%				大人が良い悪いを決めるのではなく、経験の中で気づいていけるよう意識して対応している。怪我の無いよう見守った。★双方の話を受け止め子どもたちと一緒に糸口を探している。
		2019年	59%	35%	6%			喧嘩してもよいと伝え、解決法も伝えている。★参照。担任に伝え対応している。
		2020年						
9	子どもが思ったことを友だちや保育者に伝え、相手の思っていることにも気づくように援助していますか。	2018年	68%	32%				みんなで話して決めることが多い。集団の中で声の出さない子にも配慮している。★双方の思いや気持ちを聞きながら双方に伝えている。
		2019年	65%	32%	3%			お互いの気持ちを代弁しながら気づけるようにしている。難しい子には1:1でついで伝える支援をする。★参照
		2020年						
10	子どもが保育者や友だちと一緒に過ごすことを楽しめるような配慮をしていますか。	2018年	74%	26%				好きなことを楽しめるようにしている。
		2019年	61%	35%	3%			危険だと思っても他の方から「良い」と言われればどうしたらよいかわからない。
		2020年						
11	子どもが危険な場所や遊びが分かり、安全に気をつけて行動できるように働きかけていますか。	2018年	68%	32%				前もって伝えている。危険なことをしていたら、その都度1対1や集団に向けて話すようにしている。
		2019年	68%	29%	3%			危険な場所や行為を前もって話す。見渡せる場所について危険を伝えられるようにしている。
		2020年						

チェックシート

*障がい児保育

	評価基準	記入年	評価項目ごとの評価結果					具体的な取り組み及び考察
			a	b	c	d	未記入	
1	障がい児保育について保育内容や方法に配慮し、定期的に話し合い見直す機会を設けていますか。	2018年	26%	68%	5%			会議(クラス・ケース・保育等)で情報を共有し子どもへの対応について話し合い、アドバイスを提起している。(4人) 計画書をクラスの中で見直ししているが全体でももっと共有できるとよい。 気になる子の対応を話し合い、全体会議でさらに討議している。時間を作っていく。
		2019年	32%	44%	18%		6%	
		2020年						
2	不安や焦り等の悩みを抱えている保護者の気持ちの援助に心掛け、相談に乗ったり情報を提供していますか。	2018年	58%	37%	5%			育児相談、個別面談、送迎時の声掛け、連絡帳等活用。時間的に中々会えない保護者もいる。家庭環境に合わせて援助している。自分が未熟な為、声をかけていいか戸惑う。 個々に面談ができることを保護者に伝え行っている。お迎え時に挨拶を積極的に話しせることもあった。
		2019年	41%	38%	12%	3%	6%	
		2020年						
3	障がい児保育に関する研修を受けたり、必要に応じて専門機関などと連携が取れていますか。	2018年	53%	37%	10%			☆療育や役所等情報交換をし、連携をとっている。今年度は研修を受けていないが、受けた職員の報告を受けている。 保健所へつなげ専門機関につなげている。☆参照。ネット依存の研修を受けた。研修を受けたので生かせるようにしたい。
		2019年	38%	35%	15%	6%	6%	
		2020年						

チェックシート

* 職員

	評価基準	記入年	評価項目ごとの評価結果					具体的な取り組み及び考察
			a	b	c	d	未記入	
1	「保育の主役は子どもである」ことを意識し思いや考えを取り入れた保育をしていますか。	2018年	53%	47%				話せなくても、思いを汲み取り保育している。子どもに相談しながら保育をする。
		2019年	47%	41%	9%		3%	子どもは主役であることは意識している。子どもと関わることで思いをくみ取ろうとしている。
		2020年						
2	正しい言葉遣いや声の大きさを意識して子どもと話をしていますか。	2018年	42%	53%	5%			子どもの様子を見ながら話している。余裕が無くなると大きな声を出していることがある。大きな声になり過ぎないように心掛けた。
		2019年	41%	44%	15%			言葉遣い、声の大きさは常に意識するようになっている。声の高さに気を付ける。
		2020年						
3	「ありがとう」「ごめんなさい」等生活に必要な言葉が自然に使えたり、心のこもった挨拶が交わされるような保育をしていますか。	2018年	79%	21%				言わそうとしないようになっている。自分から言おうと思えるように待つ。保育者が見本になるように心掛けている。大人の言葉をよく聞いていることを意識している。
		2019年	68%	29%	3%			感謝する気持ちは常に持つようにして大切にしている。
		2020年						
4	保育者の言動の一つ一つを、子どもはモデルとして学び活動している事を知っていますか。	2018年	68%	32%				保育者の言葉が行行動などを真似ていることを感じている。生活の中で子どもの見本となれるように常に意識している。
		2019年	71%	24%	3%		3%	子どもはよく見ているので気を付ける。間違ったら謝る。
		2020年						
5	職員間で「報・連・相」ができていますか。	2018年	21%	63%	16%			けがやトラブルの際は各クラスの担任に報連相をしている。月(伝える事)を細目にするようにしているつもりだが、もっと必要だと思う場合もある。
		2019年	15%	65%	15%	3%	3%	心がけてはいるができていないところもある。難しい。フリー間であまりいいないメモすることを意識した。受け止め方の遠いで「言った」「聞いていない」とできていないこともあった。
		2020年						
6	交通安全の習慣が子どもの身につくような保育に心掛けていますか。	2018年	58%	37%	5%			普段の散歩等でも伝えていくが、交通安全教室など専門家を呼んで行事としても行っている。
		2019年	56%	38%	6%			散歩に行ったらときなど、声に出し確認することを心掛けている。道路に出る時にこえて知らせる。
		2020年						
7	災害が起きた時や不審者が侵入した時、自分は何の様に対応するか分かっていますか。	2018年	32%	68%				訓練で役割は理解しているが、予想外の対応に不安はある。毎月の訓練でシミュレーションしている。子どもの安全を第一に考えている。
		2019年	38%	50%	12%			訓練等で学んではいるが実際あったときは対応できるか不安はある。不審者訓練に参加したが反省を確認できていない。
		2020年						
8	保育計画が適切であったか振り返りを行い、改善していますか。	2018年	37%	58%	5%			月カリキュラム、日誌の自己評価等。保育の柱も全クラスが関わり、確認した。振り返り、反省をしその後のやり方の改善をしていく。また、担任間での話し合いを行う。
		2019年	32%	47%	3%	3%	15%	振り返りながら改善できるように話し合ったりしている。
		2020年						
9	新採用職員・後輩に配慮し、温かい人間関係を作るようにしていますか。	2018年	53%	47%				何でも聞いてもらえるようにゆとりを持つ様になっている。挨拶をしたり、子どものことなど話している。なるべく自分から話すようになっている。
		2019年	50%	56%	3%		6%	不安にならないよう楽しくしごとができるようにコミュニケーションはとるようにしている。一緒に活動内容を計画している。質問に丁寧に答えていきたい。
		2020年						
10	個人情報の管理を適切に行い、伝達や相談の際、人に聞かれないよう配慮していますか。	2018年	53%	47%				
		2019年	53%	56%	6%			引継ノート等見られないようにしないといけない。空いている部屋を探し話をしている。机の上に置いてるのが気になる。
		2020年						
11	「保育所児童保育要録」を学校生活に役立つように記載することを知っていますか。	2018年	53%	37%	10%			経験がない為、詳しくはわからない。
		2019年	56%	32%	3%	3%	6%	
		2020年						

チェックシート

* 職員2

	評価基準	記入年	評価項目ごとの評価結果					具体的な取り組み及び考察
			a	b	c	d	未記入	
1	子どもが自然現象の不思議さに気付けるようにし、一緒に調べたり身近な動植物の世話をする中で、生命の尊さに気付くようにしていますか。	2018年	37%	53%	10%			サリガニにみんなで名前を付け、飼育している。季節に合った生き物(サリガニ、鈴虫、カブトムシ、青虫、蚕等)を世話した。絵本や図鑑などで一緒に調べる。
		2019年	38%	56%	6%			様々な幼虫から成虫まで子どもたちと世話することができた。
		2020年						
2	人権に十分配慮すると共に文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるように配慮していますか。	2018年	37%	53%	1%			わらべの講師と勉強会が有り、保育についてのアドバイスをもらい見直している。宗教食への配慮。外国籍の子とのかかわり。
		2019年	38%	53%	3%		6%	
		2020年						
3	地域と良好な関係を築けるよう挨拶をしたり、行事に誘ったりして、地域の保護者が気軽に保育園を利用できるようにしていますか。	2018年	42%	58%				散歩先では自分から挨拶する。交流保育、行事へのお誘いポスター掲示、おひさまの活動、町内会。
		2019年	50%	41%	3%	3%	3%	こちらから積極的に挨拶するよう心掛けている。園内で出会った際声をかけるようにしている。
		2020年						
4	保育者自身が積極的に子どもと関わり遊んでいますか。	2018年	63%	37%				子どもの楽しいを共有しようと思っている。
		2019年	71%	26%			3%	保育者が楽しむ事が大事だと思い関わっている。乳児期は遊びを養える時期なので関りを意識して楽しめるようにしている。乳児は遊びが広がるようゆったり丁寧に対応。
		2020年						
5	乳児を寝かせる場合には安全に配慮し、呼吸と体位のチェックを行い記録していますか。又事故予防に努めた保育を行っていますか。(おんぶ・抱っこ・ベビーカー・シャワー・オムツ交換時等)	2018年	63%	37%				毎日呼吸チェック表に記入。
		2019年	82%	9%			9%	毎日行っている。
		2020年						
6	子どもの病気やアレルギーについて、確認・対応を行っていますか。	2018年	63%	37%				アレルギー面談、複数での献立や配膳のチェック。定期的に確認できる体制を取らないといけない。様々な病気の知識をもっと深めていきたい。
		2019年	68%	29%			3%	個々のテーブルを設けたり、声出し除去など確認している。対応について確認し周知する。
		2020年						

チェックシート

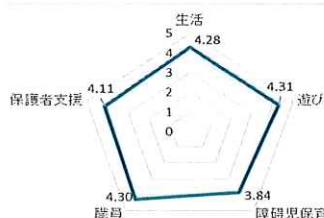
* 保護者支援

	評価基準	記入年	評価項目ごとの評価結果					具体的な取り組み及び考察
			a	b	c	d	未記入	
1	「保護者の子育てを支援する」という役割を意識し、成長や子どもを育てる喜びが共有できるよう配慮していますか。	2018年	53%	47%				保護者に会えた時は今日の様子や、最近の様子を伝えている。連絡ノートや面談、お迎え等に成長したことを伝えている。
		2019年	53%	38%	6%		3%	
		2020年						
2	連絡帳等で日常の子どもの様子を伝え合ったり、必要に応じて個別に面談を行っていますか。	2018年	68%	32%				食事のアドバイスを個別で行う。連絡帳、面談で様子を伝えている。
		2019年	59%	24%	9%		9%	育ちを共有してその後面談につなげたい。保護者と直接会える機会が少ない分連絡ノートでのやり取りを大切にしている。
		2020年						
3	保護者からの相談内容などを、園長・主任等に相談したり記録し継続的な支援をしていますか。	2018年	47%	53%				日誌や経過記録に記入。
		2019年	50%	38%		3%	12%	場合によっては職員全員で共有できるようにしている。
		2020年						
4	保護者からの要望に配慮したり、快く対応するよう努めていますか。	2018年	42%	58%				
		2019年	62%	32%	3%		3%	
		2020年						
5	保護者に参加してもらえるような行事については、事前にその趣旨を説明し、理解や協力を要請していますか。	2018年	58%	42%				ニュース(お便り)園だよりを発行している。掲示、保育参加への呼びかけ、お礼など直接声をかける。
		2019年	56%	32%	3%		9%	特に外国籍の方には細かく伝えるようにしている。
		2020年						
6	園のしおりの内容や保育課程等を理解し保護者へ分かりやすく伝える事が出来ていますか。	2018年	26%	74%				保育過程は伝える機会が少ない。
		2019年	29%	56%	6%	3%	6%	特に外国籍の方には細かく伝えるようにしている。
		2020年						

2018年度 総評

- ・毎日子供と触れ合う中で食事・排泄などの基本的支援の関わりは高い評価がでている。個性を大切に、食事の際自分で食べられる量を決められるよう働きかけたり、苦手な物も1口は食せるよう配慮している。食事を楽しみにできるように季節に合わせた食材・行事食の提供をしている。子どもと育てた野菜を調理職員に料理してもらったり、自分たちで調理を楽しんでいる。オムツ交換の際は、優しく話しかける等1対1で関わり、発達を促す大切な時間だととらえて接している。
- ・睡眠時には保育者がいつもうたっているわらべうたをうたい途中で目覚めてもやさしく唄うことで安心して入眠している。
- ・散歩に出掛ける機会を多く持ち、木の実を拾ったり自然に触れたりし、四季の移り変わりを伝えるようにしている。
- ・子どもの感じる心を大切に、喧嘩も成長の過程ととらえ見守り、気持ちを受け止め相手の気持ちも知らせるようにしている。
- ・保育の主役は子どもであることが分かり、こどもが自分たちで気付けるような働きかけをしたりなんでも大人が決定するのではなくみんなで話し決めている。保護者には連絡ノートで様子を伝えたり、会えた時に(シフト勤務の難しさはあるが)直接話したり面談の機会を設け情報提供できるよう努力している。得た情報は職員間で報告し合うが引継ぎを忘れることもありさらに改善が必要。行事に関しては、おたよりなどを使用し内容を伝えているが、分かりにくさや伝えきれないこともあり工夫や改善を要する。毎日のノート交換がないクラス幼児クラスも、日々の保育をファイルに書いて知らせ過去のページのものも読み返せるようにしてある。
- ・地域の方とは挨拶を交わしたり、支援事業には担当職員がいて園庭開放や交流を行っている。
- ・研修を通し学んでいるが、障害児保育や人権・文化自然事象など難しい表現の項目についてできているか?の問いにはb評価がついている、文章での表現の幅が広がるような伝え方や得た知識を広げられるようにしていきたい。

2019年度 総評



- ・総合的には全項目高評価であったが、遊び、職員に関する項目が特に高評価であった。保育指針改定後、全体的な保育の計画(保育過程)を見直し改善を行い、大事にしたい年齢ごとの保育を全職員で見直すことができた。「こんな保育をしたい!」と思いを出し合い共有したことで目指す方向性の確認ができた。更に遊びの約束が子ども主体になっているか職員全体で共有できているか見直し、改善に取り組んでいる。
- ・障害児の保育に関する評価がやや低かった。日々記録し、月ごとに保育の計画等を行いクラス討議後、会議で報告、必要に応じて保育会議で討議

している。就学までの長いスパンの計画を作る予定だが実現されておらず、評価に結びついたと考えられる。また、専門機関との連携を行っているが直接関わる職員以外は気づきにくいことが分かった。今後の予定や課題、保護者保護者支援についての話し合いや報告は今まで以上に、より明確な形で行うことが望ましいという課題が見えた。